

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 池上 千賀子

論 文 題 目

病院における認知症ケアに影響を与える要因の検討
—認知症看護ケアチェックリストの作成のために—

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	前川 厚子
	名古屋大学教授	玉腰 浩司
	名古屋大学教授	太田 勝正

論文審査の結果の要旨

認知症高齢者数の増加に伴い、病院における認知症高齢者の入院が増えている。認知症は、必ず中核症状があること、入院による環境の変化への適応が困難であること、治療および疾患の回復過程における苦痛などにより、BPSD(Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia)を生じることが予測され、このことは治療および看護を含む患者への安全な療養生活の提供に深刻な課題として生じている。したがって、看護師が認知症症状に対応しながら適切な治療およびケアを提供するために、自身の認知症看護ケアを振り返ることが必要であり、そのためのチェックリストが求められている。

以上より本研究は、まず看護師が行っている認知症看護ケアの具体的な実践内容を明確化し、それをもとに看護師が自身の認知症看護ケアを振り返ることができるチェックリストを開発すること、そしてそれを用いて病院における看護師が行う認知症看護ケアに影響を与える要因を探求することを目的とした。

研究は以下の3つのプロセスで実施した。第1段階は看護師が行っている認知症看護ケアの具体例の抽出と認知症看護ケアチェックリスト素案の検討、第2段階はプレテストによる妥当性、信頼性の検討、第3段階は認知症看護ケアチェックリスト原案を用いた病院における看護師の認知症看護ケアの実施状況、およびそれに影響を与える要因の調査を行った。




本研究の新知見と意義を要約すると、以下の通りである。

1. 6因子構造 28項目からなる認知症ケア看護チェックリストが得られた。認知症看護ケアチェックリストの構成概念妥当性は、本研究の基礎的枠組みとした Rokkaku の構成概念を全て含むものであり、信頼性、妥当性についてほぼ確認できるものであった。
2. 認知症看護ケアチェックリストのスコアは、認知症の専門知識の有無、加齢に伴う身体的変化に関する知識の有無、薬剤の作用・副作用の知識の有無、せん妄の知識の有無、同僚の協力体制の有無、認知症患者の身体症状の判断の自信の有無、認知症ケアの満足感の有無を含む属性について“ある”と答えた看護師のスコアの方が高い、すなわちより認知症看護ケアを実施していることが示された。

本研究により、認知症看護ケアとしての構成要素が明らかとなり、国内外の看護師が自らの認知症看護ケアを振り返るチェックリストを提示することができた。これを用いることにより、認知症看護ケアの実情の把握および改善への手がかりが得られることが期待される。これらの研究成果は、*Journal of Research in Gerontological Nursing* に掲載された (Ikegami C, et al. RGN 2018; 11(2): 91-102, IF=0.717)。

以上の理由により、本研究は博士(看護学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	池上 千賀子
試験担当者	主査 名古屋大学教授 前川 厚子 	名古屋大学教授 玉腰 浩司 	名古屋大学教授 太田 勝正 	
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 尺度開発とチェックリスト開発の違いとその臨床上の意味について 2. 項目収集のためのインタビューにおける対象者の要件について 3. 認知症ケアに関連して生じうる臨床看護上および病棟管理上の問題点について 4. 認知症ケアの実施頻度とその大切さの認識との関連について 5. 尺度開発における質問項目の天井効果の原因と解析上の留意点について 6. 実用的なチェックリストにするための要点について 7. 開発したチェックリストの活用法について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				